

私を育てた
あの時代、あの出会い

第11回

教師としての「自信」とは何かを 恩師の厳しさと優しさから学んだ

東京都 中野区立第七中学校校長 宮下彰 MIYASHITA AKIRA

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、宮下校長が語る。

熱い心と冷静な対応が
生徒を動かす

教師として自信を持つことは、生徒や保護者からの信頼を得るために大切なことの1つである——このことを私に教えてくれたのが、新任の足立区立花畑中学校で、教務主任を務めていた横山武士先生でした。「生徒に理科実験の楽しさを伝えたい」など、私には理科教諭となつたら授業で実践したいことがたくさんありました。ところが、いざ教壇に立つと、指示の出し方から注意の仕方まで、生徒との向き合い方に戸

惑う毎日でした。自分が生徒の前に立つて指導することがどういふことなのか分からないのです。最初は随分悩みました。そんな時に横山先生が教えてくれたのが、「教師としての自信を持ちなさい」ということでした。

新米の私には、「教師としての自信」がどういふものなのか分かりませんでした。しかし、横山先生の振る舞いを観察したり、相談をしたりするうちに、次第に横山先生の言う「自信」がどのようなものが少しずつ見えてきました。

横山先生は、生徒といつも本気で



みやした・あきら 専門教科は理科。国家公務員として勤務した後、東京都足立区立花畑中学校に赴任。以来、立川市立立川第二中学校教頭、武蔵野市立第二中学校校長などを経て、2011年度から現職。

1974 (昭和49)
足立区立花畑中学校に赴任。教務主任の横山武士先生に出会う

1985 (昭和60)
昭島市立拝島中学校に赴任。2年目から教務主任を務める

1991 (平成3)
立川市立立川第二中学校に教頭として赴任

1997 (平成9)
武蔵野市立第二中学校に校長として赴任

2003 (平成15)
中野区立北中野中学校に校長として赴任

2007 (平成19)
中野区立第九中学校に校長として赴任。中野区公立中学校長協会会長に就任

2009 (平成21)
全国中学校理科教育研究会会長に就任

2011 (平成23)
中野区立第七中学校に校長として赴任

*年表は略歴です

「1人で悩まず 教師同士、支え合うことが大事」



かかわっていました。「生徒に何かあれば、すぐに行動する」が信条で、問題を起こした生徒がいたら、たとえ授業中であつても即座に教室まで行き「なんだお前は！」と叱り、周りが驚くほど厳しく指導しました。

一方で、普段は笑顔絶やさず、生徒を包み込む温かな先生でした。問題を起こしやすい生徒は家庭に課題を抱えていることもあり、保護者と話し合いました。家庭の事情

で夕食も満足に食べられない生徒には、時折、靴箱に手作りの弁当を置いていました。厳しくても温かい横山先生は、生徒や保護者から厚い信頼を寄せられていました。

思いだけが先走らないよう、常に冷静な対応をすることも、横山先生の素晴らしいところでした。当時の私は、不登校や問題行動のある生徒に、「生徒のために」という思いから、よく1人で家庭訪問をしていました。しかし、保護者とうまく話が

出来ないことが多く、逆に怒られてしまうこともあり。保護者にとっては「若造のくせに」という思いもあったのでしよう。

そんな私に、横山先生は、冷静に話をするためには、保護者と1対1ではなく複数で話をする、「生徒をこのように指導していき、このように伸ばしたいと思う」という明確な方向性を持って訪問することが大事であり、そのためには、学年主任や他の教師に相談して、学校としての考えを固めてから訪問すべきだと教えてくれました。

学校の役割は生徒が安心して学べる環境をつくること

生徒を思う熱い気持ち、その思いを支える冷静さ、そして指導に対する明確な考え。この3つが揃って初めて、教師としての「自信」が生まれる。そうすれば、経験年数などに関係なく、生徒や保護者にも思いは伝わる。横山先生はそう論じてくれたのです。先生のアドバイスを実践するようになってから、不登校や問題行動のある生徒、保護者との関係は好転していきました。

また、横山先生は「1人で悩まず、

他の人に相談しなさい」とよく声を掛けてくれました。学校の帰りに飲みにも連れて行っていただき、そこでは教育論を熱く語るだけでなく、自分の失敗談も聞かせてくれました。そうした場では、学校ではうまく話せないことでも、素直に相談できたりするものです。私も、「1人で悩む必要はないよ」と、後輩をよく飲み誘うようになっていました。横山先生から学んだ数々のことは、教師人生の大きな指針となっていたのです。

今はいじめなど、学校現場での深刻な状況がニュースになることも少なくありません。学校は未然防止、早期発見、早期対応に努めることが大切です。そのための学校や教師の役割は、生徒の一人ひとりの良いところを引き出し、安心して学べる居場所をつくることだと思っております。

横山先生がそうであったように、生徒に心配な状況が見て取れた時には、その裏にあるさまざまな状況を理解し、教師が一丸となって本気がかかわっていく。こうした教師集団をつくるのが、時代を超えた今もなお、必要とされているのではないのでしょうか。